

今回は、1年生の夏季探究活動（手漉き和紙工房見学）の報告です。

◇ 重要無形文化財・本美濃和紙の工房を見学しました！

日時： 2020年8月8日（土）10：00～

場所： 幸草紙工房（さいぐさかみこうぼう） 美濃市保木脇

参加者： 後藤雅尚 西村春来

美濃市の本美濃和紙は、石州半紙（島根県浜田市）、細川紙（埼玉県小川町・東秩父村）とともにユネスコ無形文化遺産に登録されています。古くは正倉院所蔵の戸籍用紙に美濃紙が使われていますし、中世の公家や僧侶の記録にもたびたび登場します。美濃市内には今も伝統技術を受け継ぐ工房があり、厳しい指定要件に従って、本美濃和紙が生産されています。

<https://www.facebook.com/unesco.washi/>

今回は、美濃市保木脇の幸草紙工房の加納武さんのご厚意により、手漉き和紙が作られる様子を見学させていただきました。

◇ 本美濃和紙の素晴らしさを広めるために・・・

本美濃和紙に指定されるためには、以下の厳しい指定要件をクリアしなければなりません。

- ・原材料は楮（こうぞ）のみであること。
- ・伝統的な製法と製紙用具によること。
- ・伝統的な本美濃和紙の色沢、地合などの特質を保持すること。

通常、本美濃和紙生産は冬場に行われます。夏に手漉きを行うことは滅多にないそうです。今回は白皮を使った白い和紙ではなく、外皮の特性を生かした「ちり」の入った紙を漉く作業を見学させていただきました。漉舟（すきぶね）と呼ばれる大きな製の水槽に、叩解した紙料と水を張り、馬鋤（まぐわ）で漉舟の中の紙料をよく分散させます。次に黄蜀葵（とろろあおい）という植物の根から抽出した粘液（ねり）を適量入れ、竹の棒などでさらにかき混ぜ、ねりの量と強さを加減し調整します。漉き枠でこれをすくい取り、前後左右に揺り動かしながら適当な厚さの紙に漉きます。

今回、参加した1年生2名は、現在、長良川鉄道沿線の観光資源を撮影した動画を作成中です。

